

居合道 だより

第172号





はじめに

天高く澄み切った空、いっときコロナ禍も忘れそうな爽やかな季節、果物が美味しい時期でもある。

桃栗三年柿八年というが、拙宅の敷地内に種から芽生えた富有柿は8年過ぎてもまだ実が生らない。代わりに多分小生が生まれた頃からあったであろう庭の隅の老柿は、ここ数年の異常気象にも負けずにそれなりに生って毎日美味しい秋を堪能させてくれている。

今月、今年の居合道公式行事の締めとして6～7段の昇段審査会が東京で開催される。

よく、受審予定者からどうしたら人前で緊張しないで抜くことができますかと聞かれることがある。

そんな方法なんかあるはずがない。ただ言えるとしたら余計な欲を出すなとい

うことだけだ。どんなにあがいても実力以上のものは出ないのだから。神が乗り移ってくれるなら話は別だが、神無月が終わったばかりで神々が帰ってきたからってそんな都合の良い神がいようはずがない。

ならば、頼りは自分自身しかないということになる。あえて秘訣があるとしたら、日本一稽古をしたという自信を持つことだ。しかしこれはなかなか誰でもが出来ることではない。

それならば、稽古は本番のごとく、本番は稽古のごとく。

だからといって本番で力まずに普段通りの演武しようと思って力を抜く稽古をしてはいけない。

そこを勘違いしてはいけない。そんな稽古は温くなって気の抜けたビールと同じだ。悪癖がつくことはあっても何の役にも立たない。

そもそも稽古のような気持ちで本番を抜けるはずはない。ならば、稽古の時に本番のような緊張感で抜く、その延長線上が本番、それ以外はないのである。無の境地になどなれるはずのない凡人の我々でも、ただただ一生懸命、無我夢中になることは出来る。

急に上達なんかしないのだから、開き直ることだ。開き直って、何も考えずに今ある自分を思いっきりぶつけば良い。

桃栗三年柿八年。どんなに肥料や水を与えても、実が生るまでにはそれなりの年月がかかるものだ。

もぎたての富有柿はカリッと歯ごたえもよく瑞々しく甘い。一方渋柿はそのままでは食べたものではない。しかし熟した渋柿（腐りかけた？）熟し柿はまた格別の美味さがある。

開き直ってやってみようかな、もう一度。腐りかけた老体に鞭打って。

11月の予定

11月8日（日） 居合道六段・七段審査会（東京）

全剣連

編集後記

あっという間に1ヶ月が過ぎた。

私どもの同好会も審査後、受信者はその後モチベーションが上がり、どんどん上達を遂げている。子供たちは親の都合で来れない時は、zoomで積極的に参加して、意欲的に稽古しています。どうやら火がついたようです。

さて、火といえば、これを書いている今日、飯塚・嘉麻・桂川で「シークレット花火大会」というのが開催された。町中のあちらこちらで花火があがった。たった10分ほどで終わるイベントだけれど、花火の上がらなかった今年、観た人は感動したのではないかと思います。日本人に生まれてよかった！感動と感謝でいっぱいです。（個人の意見です）

またこの季節、毎年嘉麻市に「一夜城」が設置されており、今年は文字通り花火が花を添えたようです。

一夜城（益富城）とは豊臣秀吉が九州平定時に秋月種実を降伏に追い込むために一夜にして築いた城で、これを見た種実は「一夜にして城を築くとは、秀吉という人は人間に非ずして鬼神なり」と戦意を喪失し降伏したそうです。詳しくはこちら>[嘉麻市ポータルサイト](#)



長谷山：シークレット花火



一夜城（嘉麻市）

目に見えすぎた敵に恐怖した種実、我々は今、目に見えないコロナに色々なものを蹂躪され、厄介な病氣と戦う歴史的なシーンです。海外では第2波のロックダウンも始まり、ちらほらインフルエンザの声も聞こえてきて、戦々恐々とするシーズンの到来です。

みなさま、乾燥に注意し、ソーシャルディスタンスをキープしながら元気に稽古しましょう。

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟・福岡県剣道連盟 居合道部

第172号 令和2年11月発行

発行：福岡県剣道連盟居合道部

URL：<http://riai.info/>

発行人：井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847

編集：有限会社 FEW

表紙の写真は令和2年の新年稽古会です。来年こそは皆で集まって稽古したいと願いを込めて！